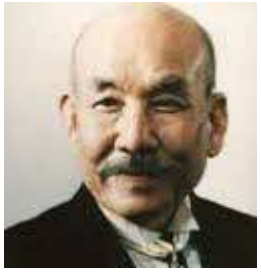
北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	昭和44年	第1回	半澤　洵	はんざわ　じゅん		応用菌学の創始と社会福祉事業の推進	明治12年札幌市に生まれ、同34年札幌農学校を卒業、のち北海道帝国大学教授となった。土壌微生物や食品工業微生物の研究を行い、アルコール製造に使用されるアミロ法の改良、雑草学の確立、納豆製造法の改良に寄与し、さらに育英・社会福祉事業にも貢献した。
産業経済	昭和44年	第1回	町村　敬貴	まちむら　ひろたか		酪農の発展と土地改良の研究実践	明治15年札幌市に生まれ、同39年札幌農学校を卒業、直ちに渡米して酪農業の研究と実習に従事した。帰国後の大正6年より石狩町、江別市などで牧場経営を行い、特にホルスタイン種の導入と品質改良、牧草ルーサンの栽培、暗きょ排水による牧草地の造成に寄与し、本道酪農業発展の基礎を築いた。
社会福祉	昭和44年	第1回	杉崎　郡作	すぎざき　ぐんさく		民生事業の推進	明治17年福井県に生まれ、同30年父親と共に北海道移民として来住したが、函館にとどまり、民間社会事業の発展に努力した。大正11年函館市補導委員補助員に就任して以来、生活困窮者の指導と援護に献身した。戦後は民生委員を務めたあと、昭和43年に杉崎奉公会を設立し、育英・社会福祉事業に貢献した。
教育	昭和44年	第1回	牧野　キク	まきの　きく		女子教育と私学の振興	明治28年富山県に生まれ、東京共立女子職業学校を卒業、大正10年来道し、以来本道の女子教育と私学振興に努力した。とりわけ昭和2年には創立間もない藤高等女学校の教諭となり、昭和16年には3代目校長として同校の経営と女子教育の実践に尽力し、女子総合教育の場としての今日の藤学園を築いた。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
スポーツ	昭和44年	第1回	南部　忠平	なんぶ　ちゅうへい		スポーツの振興と青少年の健全育成	明治37年札幌市に生まれ、北海中学を経て昭和4年早稲田大学卒業した。同7年第10回オリンピック・ロスアンゼルス大会に参加、三段跳で15メートル72の世界記録を樹立し、本道出身者で初のゴールドメダリストとなった。引退後は多くの陸上選手の育成に努力し、また本道青少年の健全育成に尽力した。
学術・科学	昭和45年	第2回	安孫子　孝次	あびこ　たかつぐ		寒地農業の推進研究	明治15年札幌市に生まれ、同41年東北帝大農科大学卒業。庁立上川農事試験場などに勤務し、寒地農作物の品種改良と技術指導に尽力した。なかでも冷害に強い「走り坊主」（水稲）と、銹病に強く良質で多収穫の「赤銹不和（あかさびしらず）一号」（小麦）の育種成功は、本道農業の発展に一大画期をもたらした。
教育	昭和45年	第2回	上原　轍三郎	うえはら　てつさぶろう		拓殖政策の研究と教育文化の振興	明治16年広島県に生まれ、同45年東北帝国大農科大学卒業、北海道帝国大学農学部教授となり植民学講座を担当した。各国の植民政策、人口問題、土地問題、屯田兵制度等の拓殖制度の研究を通じて、戦前・戦後における北海道開発の理論的指導者であった。
産業経済	昭和45年	第2回	黒澤　酉蔵	くろさわ　とりぞう		酪農の振興と北海道総合開発の推進	明治18年茨城県に生まれ、同38年東京の京北中学校を卒業後来道、本道農業、特に酪農の発展に努力した。いわゆるデンマーク農法をとりいれ、またデンマークの協同組合方式を酪農経営に導入することに尽力し、さらに農業教育の必要性を主張して酪農学園大学を創設した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	昭和45年	第2回	大野　精七	おおの　せいしち		医学の研究とスキーの普及	明治18年茨城県に生まれ、大正元年東京帝国大学を卒業した。同10年北海道帝国大学医学部の創設に際して着任し、以来本道医学界の先駆者として多大の功績を残した。産婦人科医学を専門とするが、戦後は札幌医科大学初代学長として医師養成に尽力し、またスキーの普及活動を通して道民の体位向上などに寄与した。
産業経済	昭和45年	第2回	竹鶴　政孝	たけつる　まさたか		本格的道産酒の開発	明治27年広島県に生まれ、大正5年大阪高等工業学校醸造科を卒業、以来洋酒製造に打ちこみ、我国初の本格的ウイスキーの製造に成功した。この間英国グラスゴー大学に留学、苦心の末燕溜技術法を体得して帰国し、余市に工場を建設、道産原料を用いて「ニッカウイスキー」を世に送り出した。
産業経済	昭和46年	第3回	平塚　常次郎	ひらつか　つねじろう		水産業の振興	明治14年函館市に生まれ、同33年札幌露清語学校を卒業後、日魯漁業を設立、北洋漁業の開発に貢献した。特に北洋鮭・鱒漁場の資源調査、母船式漁業の開始、紅鱒のかん詰試作等を通じて我が国水産業の振興に大きな役割を果たした。戦後はいち早く北洋漁業の再開に尽力し、また日ソ国交回復にも活躍した。
産業経済	昭和46年	第3回	林　　常夫	はやし　つねお		林業の振興	明治15年長崎県に生まれ、同39年東京帝国大学を卒業後、技師として北海道庁に赴任、地方林課長、北海道林業会会長などを歴任、この間本道林業発展のため尽力した。特に科学的合理的な森林計画の必要性を説いてその実現を図り、また保存林を設定して自然保護思想の普及に努力した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
教育	昭和46年	第3回	クサベラ・レーメ	くさべら・れーめ		女子教育の振興	明治22年西ドイツに生まれ、大正2年同地の高等師範学校を卒業、同9年来日し札幌市でドイツ語の私塾を開いた。同14年藤高等女学校を創設し、困難な社会情勢の中で女子教育に尽力した。戦後は藤女子短期大学、同大学を設立し、女子総合教育の場として評価されている今日の藤学園を育てた。
社会福祉	昭和46年	第3回	助川　貞利	すけがわ　さだとし		社会福祉の推進	明治24年茨城県に生まれ、大正5年早稲田大学を卒業後、一貫して社会福祉事業、特に更正保護事業に心血を注いだ。昭和4年札幌大化院を父から継承して、生活困窮者、身障者の福祉に尽力した。戦後は北海道保護司連合会会長として活躍、同28年札幌厚生会を創立して刑余者の更正、救護に努力した。
芸術文化	昭和46年	第3回	田邊　三重松	たなべ　みえまつ		芸術の振興	明治30年函館市に生まれ、大正5年庁立函館商業学校を卒業、函館市内の小・中学校で教壇に立つかたわら、独力で絵画の研さんに努め、北海道の厳しい大自然をモチーフとする独自の画風を確立した。また、美術団体「赤光社」の結成にも尽力し、戦後は全道美術協会の創設に参画、本道美術界の発展に貢献した。
産業経済	昭和47年	第4回	半田　芳男	はんだ　よしお		水産業の振興	明治21年秋田県に生まれ、同43年東北帝大農科大学卒業、北海道水産試験場に勤務した。道鮭鱒ふ化場長、道水産試験場長等を歴任、本道水産資源の保護増殖に尽力した。特に鮭鱒増殖の理論的究明を行った「さけ・ます人工繁殖論」の刊行と、鮭鱒ふ化事業の組織化、公営化に果たした役割は大きい。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	昭和47年	第4回	小林　篤一	こばやし　とくいち		農業の振興	明治23年兵庫県に生まれ、一家の北海道移住により来道、美唄市で農業に従事した。農民の社会経済的地位の向上を意図して共同組織の育成に尽力し、大正4年峰延信用購買販売利用組合を設立して理事となり、同8年北海道信用購買販売組合連合会（北連）創立の発起人となった。後に同会長を務めるとともに、戦後はホクレン会長も務めた。
学術・科学	昭和47年	第4回	中川　　諭	なかがわ　さとす		医学の振興	明治24年福井県に生まれ、大正5年東京帝国大学を卒業後、北海道帝国大学医学部教授を経て札幌医科大学学長となった。肝臓及び癌の研究を通じて臨床医学の発展に寄与するとともに、医学教育に情熱を注ぎ本道の医学向上、医療進歩に尽力した。また医師会の組織化にも努力した。
スポーツ	昭和47年	第4回	原田　與作	はらだ　よさく		スポーツの振興	明治33年栃木県に生まれ、同35年名寄市に移住。札幌師範を中退後、上京して東京市役所に勤めながら日本大学法学部に学んだ。昭和20年から札幌市役所に勤務し、助役を経て同34年市長となった。オリンピック冬季大会の札幌開催に心血を注ぎ、同47年の第11回大会札幌誘致に成功した。
社会福祉	昭和47年	第4回	社会福祉法人北海道家庭学校	ほっかいどうかていがっこう		青少年の教護育成	大正3年留岡幸助により少年救護院東京家庭学校名淵分校として遠軽に創立され、昭和43年社会福祉法人北海道家庭学校となった。青少年の救護活動に努め、本道の社会福祉事業の先駆的役割りを果たすとともに、地域社会の啓発指導に貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
教育	昭和48年	第5回	田所　哲太郎	たどころ　てつたろう		教育の振興	明治18年秋田県に生まれ、同43年東北帝大農科大学を卒業した。北海道帝国大学農学部教授として、農学、化学、特に栄養化学、蛋白質化学、酵素化学の研究を行い、いわゆる生物化学の発展に努力した。また同大理学部と北海道学芸大学の創立に関与し、大学行政にも貢献した。
学術・科学	昭和48年	第5回	米村　喜男衛	よねむら　きおえ		郷土文化の研究と社会教育の振興	明治25年青森県に生まれ、高等小学校を終了後理髪店に奉公しながら考古学を独習した。大正2年網走に移住、理髪店を開業するかたわら道北を中心とする北方先史文化の解明に尽力した。とりわけモヨロ貝塚の発掘とその研究は学界からも注目されるとともに、網走郷土研究会、網走郷土博物館等の設立にも寄与した。
産業経済	昭和48年	第5回	安藤　孝俊	あんどう　たかとし		水産業の振興	明治27年福島県に生まれ、大正9年文官普通試験に合格、同12年北海道庁に入り水産行政を担当して沿岸漁家の経営安定に挺身した。昭和13年北海道漁業組合の設立とともに専務理事となり、戦後は道信漁連の設立、道漁連の再建等に活躍し、本道水産業の振興と発展に寄与した。
教育	昭和48年	第5回	杉野目　晴貞	すぎのめ　はるさだ		教育の振興と北海道総合開発の推進	明治25年宮城県に生まれ、大正8年東北帝国大学卒業。欧米各国に留学し、昭和5年新設の北海道帝国大学理学部教授となった。有機化学を専攻し、天然に存在する有機化合物の単離、構造決定、合成の面で大きな業績を残した。戦後は同大理学部長を経て同29年から41年まで学長に就任し、大学の近代化と本道教育の振興にも寄与した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
社会福祉	昭和48年	第5回	阿部　謙夫	あべ　しずお		文化の振興と社会福祉の推進	明治27年札幌市に生まれ、大正6年東京帝国大学を卒業と同時に逓信省に入省、その後鉄道省に移る。昭和21年より請われて北海道新聞社社長となり、同26年より北海道放送社長も兼任、マスコミに対する社会的欲求に応えた。また文化事業にも関心を持ち、特に札幌交響楽団の創設に際しては多額の私財を投じて協力した。
産業経済	昭和49年	第6回	大川　義男	おおかわ　よしお		土地改良事業の推進	明治27年山形県に生まれ、山形師範を中退後来道。北海道庁に入り、本道開拓行政の推進に寄与した。昭和2年の北海道第2期拓殖計画策定に当たって中心的役割を果たし、現在の北海道農業の基礎確立に尽力した。同14年道土木部土地改良課長として土地改良事業を実施、同16年より道興農公社に移り、本道農業基盤の確立に貢献した。
産業経済	昭和49年	第6回	廣瀬　経一	ひろせ　けいいち		経済の振興と総合開発の推進	明治29年香川県に生まれ、京都帝国大学法学部卒業後、大蔵省に入り主税関係の要職を歴任。昭和20年北海道拓殖銀行に迎えられ、戦後の混乱期に本道経済の発展に尽力した。同27年からは北海道商工会議所連合会会頭として本道中小企業の体制整備を図った。また、昭和25年より本道総合開発計画の策定に参画、北海道の開発に貢献した。
教育	昭和49年	第6回	犬飼　哲夫	いぬかい　てつお		教育文化の振興	明治30年長野県に生まれ、北海道帝国大学農学部を卒業、昭和5年北海道帝国大学農学部教授となった。我が国北方動物研究の第一人者としてヒグマ、エゾシカ、アザラシなどの生態研究に業績を残すとともに、北大や帯広畜産大学等で後進教育に従事するなど、本道の自然環境保全と文化振興に寄与した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
教育	昭和50年	第7回	鶴岡　トシ	つるおか　とし		女子教育の振興と食生活の改善普及	明治25年新潟県に生まれ、新潟高等女学校卒業後、県内の小学校教員生活を経て来道した。昭和17年北海道女子栄養学校設立とともに初代校長となり、同38年から学校法人鶴岡学園理事長として女子教育に多大の功績を残した。また、北国の生活にマッチした食生活の改善・普及、学校給食の研究等にも尽力した。
産業経済	昭和50年	第7回	佐藤　　貢	さとう　みつぎ		酪農事業の振興と経済文化の促進	明治31年札幌市に生まれ、大正8年北海道帝国大学農学部農学実科を卒業後、酪農研究のため米国に留学した。帰国後、北海道製酪販売組合技師となり、さらに昭和25年雪印乳業設立と同時に社長、会長を歴任して本道酪農事業の振興に尽力した。また、本道経済界の要職にあって、企業と道産品の向上・発展にも努めた。
芸術文化	昭和50年	第7回	北海道美術協会	ほっかいどうびじゅつきょうかい		芸術文化の振興	大正14年本道における美術文化の創造と発展を希求する有志が結集し設立した。同年秋から公募展を開き、昭和22年からは会員展、さらにこども道展・学生道展・新人展等を開催した。本道における芸術の一中枢として多くの芸術家を育成するとともに、「道展」を通じて本道文化の向上発展に貢献した。
教育	昭和51年	第8回	髙倉　新一郎	たかくら　しんいちろう		教育の振興と郷土史の研究	明治35年帯広町に生まれ、大正15年北海道帝国大学農学部卒業後、農学部・経済学部教授として後進の教育に尽力した。また、先住民族と開拓歴史の研究を通じて北海道史の体系化に努めるとともに、「新北海道史」を始め道内市町村史の編纂、文化財保護の分野にも指導的役割を果たした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	昭和51年	第8回	島本　融	しまもと　とおる		経済の振興と文化の促進	明治37年京都府に生まれる。昭和2年京都帝国大学経済学部を卒業後、大蔵省に入り多くの要職を歴任した。同26年北海道銀行頭取となり、中小企業金融の円滑化と産業基盤の確立に尽力した。また、芸術文化にも造詣が深く、札幌交響楽団の創立、道立美術館等の実現に努力した。
社会福祉	昭和51年	第8回	社会福祉法人札幌報恩学園	さっぽろほうおんがくえん		社会福祉事業の推進	大正7年小池九一氏によって札幌区に私立感化機関として創設された。以来非行児童の感化教育事業に専念してきたが、これら児童の多くが知的能力に劣る点を重視し、その予防的見地から、戦後、本道初の精神薄弱者施設に転向、本道の民間社会福祉事業の先駆的役割を果たした。
学術・科学	昭和52年	第9回	髙橋　敏五郎	たかはし　としごろう		寒地土木事業の推進	明治39年山形県に生まれる。昭和5年北海道帝国大学工学部を卒業後、北海道庁技師として寒地土木開発の技術研究に画期的成果を挙げた。同26年北海道開発局設置と同時に同局へ転じ、札幌－千歳間の「弾丸道路」など道内主要幹線道路の舗装整備を指導し、道内の道路整備に献身的な情熱を注いだ。
地方自治	昭和52年	第9回	髙田　富與	たかだ　とみよ		地方自治の振興	明治25年福島県に生まれる。大正12年中央大学専門部を終了後、札幌で弁護士を開業した。昭和5年札幌市議会議員に当選、同22年には札幌市の初代民選市長となり、以後12年間市政を担当した。戦後の混乱と厳しい財政事情の下で、水道事業の拡張、各種公共施設の建設、隣接町村との合併を実現、札幌市発展の基礎を作った。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	昭和53年	第10回	田上　義也	たのうえ　よしや		建築技術の向上と芸術文化の振興	明治32年栃木県に生まれる。大正5年早稲田大学附属早稲田工手学校を卒業後、米国建築家ライトに師事する。同12年関東大震災を契機に来道、田上建築制作事務所を開設し、以来北方建築の創造に先駆的役割を果たした。また、大正13年に札幌音楽協会を設立し、音楽を中心とした本道芸術文化の振興にも尽力した。
産業経済	昭和53年	第10回	川端　元治	かわばた　もとじ		水産業の振興と地方自治の振興	明治35年根室町に生まれる。大正10年庁立根室商業学校を卒業後、同地で家業の海産商を引き継ぐとともに、漁家の経済安定に専心した。昭和24年根室漁業協同組合組合長に就任し、戦後の鮭・鱒漁業の操業再開に尽力、さらに道漁連会長、道水産会会長を歴任し、日ソ漁業交渉に参画するなど、本道はもとより我が国水産業の発展に貢献した。
産業経済	昭和53年	第10回	植村　甲午郎	うえむら　こうごろう		開発の推進と経済の振興	明治27年東京都に生まれ、少年期は札幌に在住した。大正7年東京帝国大学法学部を卒業後、農商務省や企画院を歴任し、昭和15年退官して石炭統制会理事長となった。戦後は経団連発足と同時に財界活動に専念し、また、北海道開発庁顧問として本道総合開発計画の推進に寄与した。昭和47年の札幌冬季オリンピック大会では、同組織委員会会長を務めた。
社会福祉	昭和53年	第10回	社会福祉法人函館聖パウロ会	はこだてせいぱうろかい		社会福祉事業の推進	明治11年仏人修道女等の手で函館に開設され、不遇児の養育と貧困者の救済及び教育、一般市民への医薬施療活動を実施してきた。この間、2度も大火にあったが関係者の努力で復興し、児童福祉施設、低額診療施設を運営するなど、本道における社会福祉事業の先駆的役割を果した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
教育	昭和54年	第１１回	川村　秀雄	かわむら　ひでお		産業教育の振興	明治３０年岩見沢市に生まれ、大正２年より空知管内で教鞭をとる。その後、本道開発の基盤は農業にあるとし、十勝農業学校や興農義塾野幌機農高校等の校長を歴任し、農業教育の指導と実践に功績を挙げた。また、昭和３４年より3期にわたり北海道教育委員に就任、うち９年間は委員長を務めるなど、本道の教育水準の向上に努めた。
芸術文化	昭和54年	第１１回	松本　春子	まつもと　はるこ		芸術文化の振興	明治３３年帯広市に生まれ、大正６年庁立札幌高等女学校を卒業した。在学中より書道を志ざし、昭和５年より尾上柴舟に師事して古典書道の研究に努め、我が国の代表的な女流書家の１人として高く評価された。同１１年さわらび会を設立、多数の会員を育成指導するとともに、個展や講演会を主催し、本道の仮名書道の普及に尽力した。
学術・科学	昭和54年	第１１回	財団法人北海道対がん協会	ほっかいどうたいがんきょうかい		がんの予防と治療の普及	昭和４年北海道帝国大学内に事務所を置く全国初のがん対策推進団体として設立され、同１０年事務所を札幌市立病院内へ移転した。以来、がんの研究や予防・治療知識の普及に努めるとともに、がんの制圧は早期の発見と治療にあると確信し、胃検診車による集団検診を実施するなど、がん対策の先駆的役割を果した。
産業経済	昭和55年	第１２回	麻里　悌三	あさり　ていぞう		水産業の振興と地方自治の振興	明治３５年小樽市に生まれ、大正９年庁立小樽中学校を卒業後、家業の漁業を継ぐ。以来、沿岸漁業の振興と漁家経営の安定や海難事故絶滅に努め、全国に先がけて北海道指導漁業協同組合や北海道海難救済基金協会を設立するなど、本道水産業の発展に寄与した。また初山別村議会議員、北海道道議会議員として地方自治の振興にも貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	昭和55年	第12回	岩本　常次	いわもと　つねじ		経済の発展と開発の推進	明治36年兵庫県に生まれる。昭和2年東京帝国大学工学部土木工学科卒業後、電力供給事業に挺身する。同22年より本道において電力の安定供給に尽力するとともに、産業・経済団体の要職を歴任し、本道経済の発展に寄与した。さらに北海道発展計画、新北海道総合開発計画の立案・推進に大きな役割を果たした。
教育	昭和55年	第12回	浅井　淑子	あさい　よしこ		私学の振興と服飾文化の普及	大正6年札幌市に生まれる。昭和14年杉野学園ドレスメーカー女子学院師範科卒業後、北海ドレスメーカー女子学院を創立。以来、北国の生活に根ざした服飾専門教育の指導と実践に努め、本道の服飾界の飛躍的な発展に寄与した。さらに、女子教育、幼児教育、調理専門教育にも大きな役割を果し、私立学校の振興に貢献した。
産業経済	昭和56年	第13回	石塚　喜明	いしづか　よしあき		農業の振興と北海道総合開発の推進	明治40年東京都に生まれる。昭和4年北海道帝国大学農学部を卒業後、同大学で農業教育及び研究に従事した。とりわけ本道に広く分布する泥炭地等の特性を明らかにして土壌改良技術を改善し、また水稲の水耕栽培法を開発するとともに、寒地作物の栽培技術を確立した。さらに北海道総合開発計画の立案・推進にも尽力した。
産業経済	昭和56年	第13回	丹羽　貴知藏	にわ　きちぞう		北海道総合開発の推進と教育の振興	明治43年大阪府に生まれる。昭和8年北海道帝国大学理学部を卒業後、同大学で後進の教育と金属科学の研究に従事した。特に専門分野での研究は世界的に評価され、我が国鉄鋼産業の発展に貢献、同46年には北大学長に就任した。また、翌47年、北海道総合開発委員会委員長となり、北海道発展計画の策定に尽力した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
社会福祉	昭和56年	第13回	鮫島　龍水	さめしま　たつみ		医学の振興と文化の普及	明治21年長野県に生まれる。大正4年東京帝国大学医学部を卒業後、同8年来道し、旭川、小樽、札幌で医療に従事した。戦前戦後の30余年を北辰病院院長として健康・労災保険の模範的診療に尽力し、道民の予防医療にも貢献した。また、昭和初期より「交魚子」の俳号でホトトギス同人として活躍した。
芸術文化	昭和56年	第13回	前田　雅楽寿美	まえだ　うたすみ		芸術文化の振興	明治32年滝川市に生まれる。8才から箏曲を学び、その生涯を琴の修行とその普及にささげた。大正8年山田流箏曲名取となり、昭和7年生田流に転門、同16年正派若菜会を設立して多くの門下人を育成し、箏曲を道民に普及した。また同48年、道内の邦楽三曲諸流派を統合した北海道三曲連盟を創設した。
産業経済	昭和57年	第14回	伊藤　俊夫	いとう　としお		北海道総合開発の推進と教育の振興	明治40年札幌市に生まれる。昭和6年北海道帝国大学農学部経済科を卒業後、同大学において経済学に関する優れた研究業績をあげるとともに、教育者として数多くの優秀な人材を社会に送り出した。さらに北海道総合開発委員会副委員長など多くの要職を歴任し、本道の総合開発、農業の振興、道民生活の安定など、幅広い分野において本道の発展に貢献した。
産業経済	昭和57年	第14回	福屋　茂見	ふくや　しげみ		酪農の振興と北海道総合開発の推進	明治36年江別市に生まれる。大正12年北海道種畜場実習生としてデンマーク人ラーセン氏からデンマーク式農法を学ぶ。昭和5年恵庭町の現在地で酪農経営を始め、以来50年余り、自らの経営実践を通じて乳牛の改良と酪農経営の普及指導、酪農団体の育成に尽力した。また、北海道総合開発計画並びに北海道発展計画の立案・推進に指導的役割を果たした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
芸術文化	昭和57年	第１４回	村井　満寿	むらい　ます		音楽教育の推進と芸術文化の振興	明治３２年札幌市に生まれる。幼少のころ札幌北光協会のローランド宣教師の賛美歌に深い感銘をうけて音楽の道を志ざし、大正５年東京音楽学校に入学した。ハンカー・ペツオールド、長坂好子両教授の指導を受け、本格的に声楽を学び、天賦の才能を錬磨した。個性豊かな声量をもって我が国を代表する声楽家として高く評価された。
芸術文化	昭和58年	第１５回	九島　勝太郎	くしま　かつたろう		芸術文化の振興と文化団体の育成	明治３９年札幌市に生まれる。昭和7年早稲田大学卒業後、音楽活動に心血を注ぎ、音楽の普及、振興に指導的役割を果たし、本道における音楽文化の向上に寄与するとともに、文化団体の育成に努めた。さらに、その実践的な活動を生かし、北海道総合開発委員、北海道文化振興審議会委員などの公職に携わり、その豊かな識見をもって本道の発展に大きく寄与した。
産業経済	昭和58年	第１５回	髙野　源藏	たかの　げんぞう		水産業の振興	明治３２年釧路市に生まれる。昭和2年いわし定置網漁業に着業して以来、半世紀余にわたって本道水産業界において指導的役割を果たし、沿岸漁業をはじめ本道水産業の振興に尽力した。この間、北海道漁業調整委員会委員、日ソ漁業委員会委員として、漁業秩序の確立と水産行政の発展に大きく貢献、また、釧路市議会議員、北海道議会議員を歴任するなど地方自治の振興にも大きく寄与した。
自然環境保全	昭和58年	第１５回	前田　光子	まえだ　みつこ		自然保護の推進	明治４５年栃木県に生まれる。昭和１３年阿寒湖畔の山林を経営していた前田一歩園園主前田正次氏と結婚、同32年正次氏の没後、園主として国立公園の景観保護に尽力するとともに、地域住民の福祉増進のため、土地の提供、奨学基金、教育器材等の寄附協力を行うなど、本道の自然保護、福祉増進、教育振興及び地域振興に大きく貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	昭和59年	第16回	安倍　三史	あべ　さんし		公衆衛生の推進	明治40年追分町に生まれる。昭和8年北海道帝国大学医学部を卒業、その後北海道大学医学部教授となり、同医学部長も務めた。北海道公害対策審議会会長などの要職につき、環境衛生・労働衛生を推進、公衆衛生思想を普及するなど幅広い活動を展開して、道民の健康保持とその増進に多大な貢献をした。
社会福祉	昭和59年	第16回	稲垣　是成	いながき　これなり		社会福祉の推進と教育の振興	明治41年富山県に生まれる。昭和7年北海道帝国大学医学部を卒業、同28年以後、北海道衛生部長、民生部長、教育長を歴任した。同35年より藤女子短期大学教授として、私学教育にも貢献した。幅広い行政経験を生かして各種団体役員等として指導的役割を果たし、本道の社会福祉、保健衛生、教育の振興に多大の貢献をした。
産業経済	昭和59年	第16回	水島　健三	みずしま　けんぞう		産業経済の振興	明治39年石川県に生まれる。大正14年石川県立小松商業学校を卒業後、昭和5年(株)ほくさんに入社。以来50年以上にわたり、本道における酸素・高圧ガスの製造供給に尽力し、同34年には社長に就任した。エネルギーの安定供給と保安の確保に貢献し、先端技術の導入に努めるとともに、本道の総合開発等の推進にも寄与した。
産業経済	昭和60年	第17回	東条　猛猪	とうじょう　たけい		総合開発の推進と経済の振興	明治43年高知県に生まれる。昭和7年東京帝国大学法学部を卒業後、大蔵省に入省、銀行局長等を経て、同34年北海道拓殖銀行副頭取、同37年には頭取に就任した。北海道総合開発委員会副委員長等として本道経済の発展、本道総合開発の推進に尽力するとともに、北方圏センター会長等の要職を歴任し、豊かな北海道の創造に大きく貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	昭和60年	第17回	太田　寛一	おおた　かんいち		農業の振興	大正４年帯広市に生まれる。士幌町で農業に従事する傍ら、半世紀にわたり農業協同組合運動のリーダーとして、組合組織の育成発展に尽力した。また、ホクレン農業協同組合連合会会長、各種関連団体等の要職を歴任し、本道農業の振興、農畜産物流通加工の近代化や系統組織の運営改善に多大の貢献をした。
産業経済	昭和60年	第17回	中山　大五郎	なかやま　だいごろう		中小企業の振興	大正６年興部村に生まれる。昭和６年興部尋常高等小学校卒業後、網走市内の書店に就職、働きながら勉学に励み、同２１年札幌市に衣料品販売店を創業した。以来、事業の発展に尽力する一方、中小企業の組織化と近代化のために協同組合運動を指導し、本道の小売商業の振興・発展に多大の貢献をした。
社会福祉	昭和60年	第17回	社会福祉法人函館厚生院	はこだてこうせいいん		社会福祉事業の推進	明治３３年仲山興七、寺井四郎兵衛、上田大法の３氏によって函館市に開設された。児童・老人・低所得者の福祉や医療など広い分野で献身的に業務を行い、本道社会福祉事業の先駆的役割を果たすとともに、その推進に多大の貢献をした。
芸術文化	昭和61年	第18回	荒谷　正雄	あらや　まさお		音楽教育の推進と芸術文化の振興	大正３年札幌市に生まれる。昭和１１年東京帝国音楽学校卒業と同時にヨーロッパに留学、帰国後、演奏活動に心血を注いだ。札幌交響楽団の創設に参画、常任指揮者として楽団の育成に尽力し、広く道民に音楽芸術の鑑賞機会を提供した。また、北海道文化振興審議会委員として本道の芸術文化の振興と文化活動の推進に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	昭和61年	第18回	有末　四郎	ありすえ　しろう		医療の向上と社会福祉の推進	明治40年美唄市に生まれる。昭和7年北海道帝国大学医学部卒業後、半世紀にわたり保健医療の確保と社会福祉事業の推進に尽力した。この間、北海道地方医療機関整備審議会委員、北海道社会福祉審議会委員、北海道公害対策審議会委員など数多くの要職を歴任し、道民の健康の保持増進と福祉の進展、環境衛生の向上に多大の貢献をした。
産業経済	昭和61年	第18回	早坂　正吉	はやさか　まさきち		農業の振興	明治44年美瑛町に生まれる。大正14年美瑛町尋常高等小学校高等科卒業後、地元美瑛町において農業に従事する傍ら、黎明期の農協運動に参画した。北海道農業協同組合中央会会長など数多くの要職を歴任、農協組織の育成、発展に尽力し、卓越した見識と指導力によって食糧基地北海道の発展に多大の貢献をした。
産業経済	昭和61年	第18回	阿部　英一	あべ　えいいち		水産業の振興	大正9年釧路市に生まれる。昭和16年小樽高等商業学校を卒業後、漁業に従事した。全国漁業組合連合会副会長などを歴任し、漁業制度資金の確立や系統組織の運営改善に卓越した指導力を発揮した。また、釧路市議会議員、北海道議会議員として地方自治の発展に、日ソ漁業交渉政府代表顧問として本道水産業の振興に、多大の貢献をした。
芸術文化	昭和62年	第19回	佐■　岡豊	さなぎ　おかとよ		芸術文化の振興	明治42年愛媛県に生まれる。幼少より箏曲の道を志し修行に専念、優れた演奏家として活躍する傍ら、伝統芸術の継承と普及に尽力するとともに、多数の指導者を養成した。また、札幌・新音楽集団「群」を結成し、新しい邦楽芸術の創造に意欲的に取り組み、箏曲の水準を高めるなど、邦楽の振興に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	昭和62年	第19回	武谷　愿	たけや　げん		石炭液化の研究開発と環境保全の推進	明治45年福岡県に生まれる。昭和10年東京帝国大学工学部を卒業、石炭利用技術の研究において顕著な業績を挙げ、とりわけ石炭液化（人造石油）の研究では国際的にも高い評価を得た。また、北海道公害対策審議会会長として、全国で初めての環境アセスメントの制度化に尽力し、公害発生の未然防止に多大の貢献をした。
産業経済	昭和62年	第19回	四ツ柳　高✔	よつやなぎ　こうも		産業経済の振興と 北海道総合開発の推進	明治41年函館市に生まれる。昭和7年東京帝国大学経済学部を卒業後、一貫して電力供給事業に携わった。北海道電力（株）のトップリーダーとして本道の電力エネルギーの安定供給に心血を注ぎ地域社会や生活文化の発展向上に寄与した。また、道経連会長などの要職を歴任し本道経済の活性化に多大の貢献をするとともに北海道開発審議会会長や北海道総合開発委員会委員を務めるなど本道総合開発の推進にも尽力した。
教育	昭和62年	第19回	紅林　晃	くればやし　あきら		教育の振興と社会福祉の推進	明治42年白糠町に生まれる。昭和4年音別尋常小学校訓導として初等教育の第一線にたって以来、北海道教育委員会委員長などを務め、本道教育界の重鎮として半世紀にわたり教育の振興に大きな役割を果たした。また、北海道児童福祉審議会、北海道社会福祉協議会での活動を通じて、青少年の健全育成及び社会福祉の推進にも多大の貢献をした。
芸術文化	昭和63年	第20回	国松　登	くにまつ　のぼる		芸術文化の振興と文化団体の育成	明治40年函館市に生まれる。昭和8年帝国美術学校に入学し研鑽を積みながら精力的に創作活動を続け、中央画壇に確固たる地位を築いた。同20年全道美術協会の創立に参画し、指導的役割を果たすとともに、後進の指導に当たるなど、本道の美術の普及と向上に尽力し、文化の振興に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	昭和63年	第20回	山﨑　武夫	やまざき　たけお		地域医療の推進と健康づくりの普及	大正３年岐阜県に生まれる。北海道帝国大学医学部卒業後、永年にわたり本道の保健・医療・福祉の向上と健康づくりの普及に尽力した。特に、北海道医師会会長、北海道総合医療協議会会長、北海道健康づくり財団理事長等として、本道の地域医療と救急医療の体系的整備及び予防医学の確立に多大の貢献をした。
スポーツ	昭和63年	第20回	地崎　宇三郎	ちざき　うさぶろう		スポーツの振興と社会福祉の推進	大正８年札幌市に生まれる。衆議院議員として20年間国政に参画するとともに、昭和40年北海道体育協会会長に就任し、道民皆スポーツの普及と競技力の向上に尽力するなど本道のスポーツの振興発展に貢献した。また、盲導犬の普及や身体障害者スポーツの振興にも尽力し、本道の社会福祉事業の発展に多大の貢献をした。
芸術文化	平成元年	第21回	金子　鷗亭	かねこ　おうてい		芸術文化の振興	明治39年松前町に生まれる。函館師範学校を卒業後、書の道に進むため上京し研鑽に努め、我が国の書道界に確固たる地位を築いた。また、創玄書道界の北海道展を開催するとともに、後進の育成指導に尽力するなど本道の芸術文化の振興に多大の貢献をした。さらに、書を通した国際交流にも尽力し、その発展に寄与した。
自然環境保全	平成元年	第21回	斉藤　春雄	さいとう　はるお		自然環境保全の推進	明治43年札幌市に生まれる。北海道帝国大学農学部林学実科を卒業後、永年にわたり鳥獣保護と自然保護思想の普及啓発に尽力した。また、北海道自然環境保全審議会会長、北海道文化財保護審議会会長として、自然環境保全の推進と文化財の保護に貢献した。さらに、北方鳥類研究所を主催し鳥類の分布や人間社会と鳥類に関する調査研究に尽力した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	平成元年	第21回	髙橋　丑太郎	たかはし　うしたろう		林産業の振興	大正5年東旭川村に生まれる。旭川第一尋常高等小学校高等科を卒業後、永年にわたり本道の林産業の振興・発展に尽力した。特に北海道木材協会会長、全国木材組合連合会副会長等として、関係団体の育成強化、企業の体質改善や経営の安定化に貢献した。また、道産広葉樹の普及・啓発に情熱を傾け、その利用振興にも尽力した。
教育	平成2年	第22回	安藤　鉄夫	あんどう　てつお		教育の振興	明治44年8月6日浦河町に生まれる。昭和8年伊達尋常高等小学校訓導として教育界に身を投じて以来、豊かな人間愛と卓越した指導力を発揮して、本道教育の充実発展に尽力し、多大の貢献をした。また、昭和47年以来、北海道教育委員会の委員、委員長として本道教育行政の推進に大きく寄与した。
産業経済	平成2年	第22回	伊藤　森右衛門	いとう　もりうえもん		北海道総合開発の推進と産業経済の振興	大正8年小樽市に生まれる。昭和17年神戸商業大学を卒業後、経営学の研究に専念し、北海道学芸大学、小樽商科大学等で理論はもとより行動及び実践を重視した教育に力を尽くし、有能な人材を育成した。また昭和43年から北海道総合開発委員会の委員長として北海道総合開発の推進に多大の貢献をした。
芸術文化	平成2年	第22回	全道美術協会	ぜんどうびじゅつきょうかい		芸術文化の振興	昭和20年本道に疎開中の美術家と道内在住の美術家によって全道的規模の美術団体として設立された。北海道の美術文化の水準を高め、美術創造精神の普及を図ることを目的として活発な活動を実践し、本道の芸術文化の振興に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	平成3年	第23回	大原　久友	おおはら　ひさとも		酪農の振興	大正元年羽幌町に生まれる。我が国の草地学の創始者であり、この分野の研究を世界的レベルに引き上げるとともに、帯広畜産大学に我が国初の草地学科を設置し、人材の育成に努めた。また、国及び道の各種審議会委員として本道の開発・農業政策の企画に参画し、本道の酪農の振興に大きく貢献した。
芸術文化	平成3年	第23回	栗谷川　健一	くりやがわ　けんいち		デザインの普及と芸術文化の振興	明治44年岩見沢市に生まれる。本道のグラフィックデザインの第一人者であり、詩情豊かな作品を多数発表し、道内外で高い評価を受けた。後進の指導、育成に熱意を注ぐとともに、昭和57年には北海道デザイン協議会を設立し、会長として本道デザイン界のレベル向上に多大の貢献をした。
産業経済	平成3年	第23回	今井　道雄	いまい　みちお		産業経済の振興と社会福祉の推進	大正4年札幌市に生まれる。昭和13年東京商科大学を卒業後、家業の百貨店経営を通して道民の豊かな生活に寄与するとともに、経済界の重鎮として本道経済の活性化に多大の貢献をした。また、社会福祉事業に深い理解を示し、多数の団体の要職に就任、その運営に尽力し、本道の社会福祉の向上に貢献した。
芸術文化	平成3年	第23回	財団法人札幌交響楽団	さっぽろこうきょうがくだん		芸術文化の振興	昭和36年全国で3番目の地方オーケストラとして設立された。優れた演奏力と広いレパートリーを持つ「札響」は活発な演奏活動で多くの道民に感動を与え、音楽芸術への深い関心と情操を培ってきた。また、音楽教室の開催を通じて青少年に対する音楽教育にも尽力し、本道の芸術文化の振興に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
社会福祉	平成4年	第24回	河邨　文一郎	かわむら　ぶんいちろう		社会福祉の向上と芸術文化の振興	大正6年小樽市に生まれる。永年にわたり整形外科医として医学の発展に努めるとともに、肢体不自由児者へのリハビリテーションの普及をはじめとする障害者福祉の向上に貢献した。また、現代詩の創作や文化関係団体の育成、国際交流の推進など多彩な活動を通じて本道の芸術文化の振興に大きく貢献した。
学術・科学	平成4年	第24回	高橋　萬右衛門	たかはし　まんえもん		農業技術の振興	大正7年岩手県に生まれる。永年にわたり植物育種学、遺伝学の教育振興に専念し、耐寒性及びイモチ病抵抗性イネ種の育種技術を確立させるなど寒冷地農業の振興に優れた成果を収めた。また、多数の優秀な人材を育成し、本道の農業技術の発展に大きく貢献した。
教育	平成4年	第24回	時任　正夫	ときとう　まさお		私学教育の振興	明治45年札幌市に生まれる。永年にわたり私学教育の充実と振興に尽力し、北星学園大学に本道初の社会福祉学科を設置するとともに、公開講座や社会人入学の実施など地域に開かれた特色ある大学教育の推進に寄与した。また、私学関係団体の要職にあって本道の私学の基盤整備に貢献した。
芸術文化	平成4年	第24回	江差追分会	えさしおいわけかい		郷土文化の振興	昭和10年各派合同により会が発足。以来、伝統的な民俗芸能である江差追分の保存、伝承活動に努め、我が国を代表する民謡としての評価を高めた。また、追分を通して国際交流を推進するとともに、地域の文化財の保存も含めたまちづくりを進めるなど、本道の地域文化の振興にも先駆的な役割を果たした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
スポーツ	平成5年	第25回	川崎　靜一郎	かわさき　せいいちろう		スポーツの振興と青少年の育成	明治44年札幌市に生まれる。青年時代、本道を代表する陸上競技の短距離選手として活躍し、引退後はアマチュアスポーツの普及振興と競技技術の向上のため後進の指導に貢献した。また、本道の次代を担う青少年の健全な育成に強い情熱を傾け、青少年教育の向上に大きく貢献した。
学術・科学	平成5年	第25回	川田　　寛	かわた　ひろし		科学技術の発展と産業経済の振興	大正10年江別市に生まれる。イカのゴロから液晶を開発するなど、水産物の未利用資源を利用した研究開発で多数の先駆的な成果を収め、本道の科学技術の発展に大きく貢献した。また、産業経済団体の要職を歴任し、地域の特性を生かした産業の振興に尽力した。
教育	平成5年	第25回	渡邊　左武郎	わたなべ　さぶろう		医学の発展と学術文化の振興	明治44年札幌市に生まれる。永年にわたり医学教育に携わり、札幌医科大学創設に尽力するとともに、道内各地で活躍する多くの優れた医師や養護教諭等の育成に努め、本道の医学の発展に大きく貢献した。また、形質人類学にも優れた業績を残し、学術文化の振興に寄与した。
芸術文化	平成5年	第25回	札幌放送合唱団	さっぽろほうしょうがっしょうだん		芸術文化の振興	昭和17年女性合唱団としてNHK札幌放送局に創立され、同23年混声合唱団として再編成された。以来、定期演奏会の開催や学校訪問など合唱音楽の普及に努め、本道を代表する合唱団として質の高い音楽の鑑賞機会を道民に提供するとともに、音楽を通じた国際交流を推進するなど、本道の芸術文化の振興に大きく貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
芸術文化	平成6年	第26回	小川原　脩	おがわら　しゅう		芸術文化の振興	明治44年倶知安町に生まれる。青年時代、前衛美術運動の担い手として中央画壇で活躍した。戦後、故郷倶知安町で創作活動に専念し、北国の動物や風景を題材とした数多くの優れた作品を世に送るとともに、若手芸術家の育成指導に熱意を注ぎ、本道の美術文化の振興に大きく貢献した。
産業経済	平成6年	第26回	中野　友雄	なかの　ともお		産業経済の振興	大正5年石川県に生まれる。永年にわたり電力供給事業に携わり、本道の電力エネルギーの安定供給に努め、地域社会の産業活動と道民生活の発展向上に寄与した。また、産業経済団体の要職を数多く歴任し、高速交通体系網の整備促進に努めるなど、本道経済の活性化に大きく貢献した。
社会福祉	平成6年	第26回	野村　義一	のむら　ぎいち		アイヌ民族の地位の向上と アイヌ文化の伝承保存	大正3年白老町に生まれる。永年にわたり北海道の先住民族であるアイヌ民族の権利の確立と社会的・経済的地位の向上や福祉の充実に献身するとともに、アイヌ古式舞踊などアイヌ民族の歴史文化の伝承保存に大きく貢献した。また、世界の先住民族の人権擁護や地位の向上に大きな役割を果たした。
学術・科学	平成6年	第26回	山田　守英	やまだ　もりひで		医学の発展と地域医療の振興	明治39年江別市に生まれる。永年にわたり医学の教育研究に専念し、我が国の細菌学、ウイルス学の先駆者として数多くの優れた成果を収め、本道の医学の発展に寄与した。また、地域医療センターとしての旭川医科大学の創設に尽力し、多数の優秀な人材を育成するなど、地域医療の振興に大きく貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
社会福祉	平成7年	第27回	秋山　喜代	あきやま　きよ		保健衛生の向上と社会福祉の推進	大正6年札幌市に生まれる。永年にわたり薬業を通じて道民の保健衛生の向上に大きく貢献するとともに、「小さな親切」運動北海道本部代表を務めるなど本道の社会福祉の推進に寄与した。また、財団を設立し、生命科学の基礎研究に係る人材の育成や、国際的な人材交流の活性化の促進にも尽力した。
産業経済	平成7年	第27回	鈴木　　茂	すずき　しげる		産業経済の振興と 北海道総合開発の推進	大正6年岩内町に生まれる。北海道商工会議所連合会の会頭をはじめ、数々の経済界の要職にあって、本道の産業経済の振興、発展に大きく貢献するとともに、数多くの審議会委員を務め、本道の総合開発施策の推進に尽力した。また、本道の社会福祉や文化の向上にも寄与した。
芸術文化	平成7年	第27回	和田　謹吾	わだ　きんご		北海道文学の振興	大正11年東京都に生まれる。永年にわたり日本近代文学及び北海道文学の研究に取り組み、その礎石を築くとともに、文学団体の育成や後進の指導に尽力するなど、本道の文学の振興・発展に大きな功績を残した。また、北海道文学館の運営にも指導的な役割を果たした。
芸術文化	平成8年	第28回	遠藤　道子	えんどう　みちこ		音楽教育の推進と芸術文化の振興	大正7年茨城県に生まれる。本道におけるピアノ演奏の第一人者として、ピアノ音楽の普及をはじめ、国際的なピアニストの育成など後進の指導に尽力した。また、ショパン作品を系統的に紹介するなど、本道におけるピアノ音楽の水準向上に先導的な役割を果たし、本道の芸術文化の振興に大きく貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	平成8年	第28回	和田　武雄	わだ　たけお		医学の発展と学術文化の振興	大正3年広島町に生まれる。永年にわたり内科学を中心とする医学の研究及び医療技術者の養成に努めるとともに、札幌医科大学等の学長として大学及び病院の整備充実に貢献した。また、海外諸国との交流や医療援助に寄与するとともに、多くの公職を歴任し、本道の学術、文化の振興に大きく貢献した。
産業経済	平成8年	第28回	石崎　喜太郎	いしざき　きたろう		水産業の振興	大正15年増毛町に生まれる。永年にわたり北海道漁業協同組合連合会代表理事会長などの要職を歴任し、漁業系統運動の牽引役を果たした。また、日ソ漁業交渉では北海道の代表として政府顧問を長く務めるなど、本道のみならず我が国水産業の発展に多大の貢献をした。
学術・科学	平成9年	第29回	有江　幹男	ありえ　みきお		学術の振興と北海道総合開発の推進	大正9年夕張町に生まれる。機械工学の分野で先駆的業績を挙げるとともに、北海道大学学長として国際交流の充実や遺伝子実験施設の設立など大学の発展充実に貢献した。さらに、産業経済や文化等広範な分野にわたる団体の役員や各種審議会の委員を務め、本道の総合開発の推進に多大の貢献をした。
芸術文化	平成9年	第29回	掛川　源一郎	かけがわ　げんいちろう		芸術文化の振興	大正2年室蘭市に生まれる。永年にわたり、自然、人間、アイヌ民族文化及び社会問題等をテーマに写真を撮り続け、各種写真展での数多くの受賞や写真集の出版により全国的に高い評価を受けた。本道写真界において指導的役割を担い、写真を通して本道の芸術文化の振興に大きく貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	平成9年	第29回	床鍋　繁則	とこなべ　しげのり		農業の振興	大正11年上富良野村に生まれる。各種農業団体の要職を歴任し、特に、北海道農業協同組合中央会会長として、激動する農業情勢の中で力強いリーダーシップを発揮、全国的にも絶大な信頼を得た。さらに、各種審議会の委員を務め、全国的視野に立って日本農業の振興に大きく貢献した。
芸術文化	平成9年	第29回	三浦　綾子	みうら　あやこ		芸術文化の振興	大正11年旭川市に生まれる。昭和39年に「氷点」で文壇にデビューして以来、小説、伝記、エッセイと幅広い分野で多くの著書をあらわし、戦後の日本を代表する女性作家として活躍した。生まれ故郷の旭川市で文筆活動を続け、文学を通して本道の芸術文化の振興に大きく貢献した。
学術・科学	平成10年	第30回	勝井　義雄	かつい　よしお		火山の研究と防災対策の普及	大正15年岩見沢市に生まれる。国内外の火山の研究に専念し、火山学及び自然災害科学の発展に貢献するとともに、火山災害の事前評価と軽減のための有効な戦略を立て火山防災に寄与した。また、火山災害予測図（ハザードマップ）の作成に尽力し、道民生活の安全確保に多大の貢献をした。
芸術文化	平成10年	第30回	木内　　綾	きうち　あや		優佳良織の開発と工芸美術の振興	大正13年旭川市に生まれる。本道の自然と風土を生かした独創的で美しい染織「優佳良織」を開発し、北海道を代表する工芸美術品として国内外で高い評価を受けた。また、展示や創作のための工芸館を開設し染織工芸の普及を図るとともに、後継者の育成に力を注ぎ、本道の工芸美術の振興に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
消費者運動	平成10年	第30回	三宅　嘉子	みやけ　よしこ		消費者運動の推進	昭和2年帯広市に生まれる。道内初の地方消費者協会である帯広消費者協会の設立に尽力し、昭和49年には北海道消費者協会会長に就任、24年の長きにわたり本道の消費者運動のリーダーとして活躍した。また、各種審議会等の委員を務め、道民生活の安定向上と本道の発展に大きく貢献した。
芸術文化	平成11年	第31回	小谷　博貞	こたに　ひろさだ		芸術文化の振興	大正4年札幌市に生まれる。抽象絵画の創作に専念し、本道の歴史や風土に根ざした独創的で洗練された作品を発表するなど、北海道を代表する画家として高い評価を受けた。また、後進の指導・育成に携わるかたわら、道内美術団体の育成に尽力するなど、本道の芸術文化の振興に多大の貢献をした。
学術・科学	平成11年	第31回	佐々　保雄	ささ　やすお		地質学の研究	明治40年札幌市に生まれる。永年にわたり地質学の研究に専念し、層位学、燃料地質学、海洋地質学、航空写真地質学などの広範な分野に及ぶ研究を結実させるなど、数多くの優れた業績を挙げた。また、大学教育を通して多くの人材を育成するなど、本道の学術教育の振興に多大の貢献をした。
産業経済	平成11年	第31回	高橋　延清	たかはし　のぶきよ		天然林育成の研究と森づくりを通した文化の振興	大正3年岩手県に生まれる。東京大学北海道演習林において天然林育成の研究に尽力し、北方天然林に対する優れた施業法である「林分施業法」理論を確立するなど、調和と発展を基調とした森林づくりに寄与した。また、エッセイ等の著作物を出版するなど、本道の文化の振興に大きく貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
芸術文化	平成12年	第32回	萱野　茂	かやの　しげる		アイヌ民族文化の伝承保存	大正15年平取町に生まれる。アイヌ民族資料の収集をはじめ、アイヌ民謡、叙事詩、民話の聞き取り調査等を行うとともに、アイヌ民族の伝統文化に関する書物を多数著し、その成果を国内外に発表した。また、萱野茂二風谷アイヌ資料館を開設するなど、アイヌ民族文化の伝承保存に多大の貢献をした。
学術・科学	平成12年	第32回	北構　保男	きたかまえ　やすお		考古学の研究	大正7年根室市に生まれる。考古学の分野において、北海道を基盤としながら周辺外国地域をも視野に入れた国際的・学術的な研究に取り組んだ。特にオホーツク文化や古代蝦夷の研究に優れた業績を挙げ高い評価を得た。また文化財の保護にも尽力し、本道の学術の振興に多大の貢献をした。
芸術文化	平成12年	第32回	中野　北溟	なかの　ほくめい		芸術文化の振興	大正12年羽幌町に生まれる。教員として勤務する傍ら書の創作活動に取り組んだ。教員退職後も意欲的な活動を展開し、本道を代表する書家として国内外において輝かしい業績を挙げるとともに、道内書道界の向上・発展のため先導的な役割を果たし、本道の芸術文化の振興に多大の貢献をした。
社会福祉	平成12年	第32回	社会福祉法人北海道母子寡婦福祉連合会	ほっかいどうぼしかふふくしれんごうかい		社会福祉の推進	昭和30年に全道的規模の自主的組織として設立した。厳しい環境の中にある母子家庭や寡婦の方々の自立促進と福祉の向上のため、全国に先駆けて母子福祉法制定に向けた運動や母子家庭の医療費無料化などに取り組むなど、本道の社会福祉の推進に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
芸術文化	平成13年	第33回	一原　有徳	いちはら　ありのり		芸術文化の振興	明治43年徳島県に生まれ、後に小樽市に移住した。版画の分野で初めて北海道現代美術展北海道立近代美術館賞を受賞するなど、独創的な作風、特色ある技法で優れた作品を多数発表し、国際的にも高い評価を得ている。また、登山家、俳人等としても活躍し、本道の芸術文化の振興に多大の貢献をした。
芸術文化	平成13年	第33回	上遠野　徹	かとの　てつ		建築文化の振興	大正13年函館市に生まれる。住宅をはじめ学校や教会等の設計に携わり、本道の住宅の新しい様式を作り上げるとともに都市景観に配慮した設計を行った。氏の本道の風土に根ざしたデザインは芸術的にも優れた造形美を創出し、練度の高い技術手法とともに全国的に高い評価を得ており、建築文化の振興に多大の貢献をした。
学術・科学	平成13年	第33回	高尾　彰一	たかお　しょういち		バイオテクノロジーの振興	大正15年夕張市に生まれる。微生物利用のバイオテクノロジーの分野の研究で多大な成果をあげ、その発展に大きく貢献するとともに、諸外国との学術交流においても輝かしい業績を挙げた。また、北海道産の農水産物を用いた新規加工食品の開発に携わるなど、本道の産業振興にも尽力した。
教育	平成13年	第33回	細谷　　猛	ほそや　たけし		教育の振興	大正8年芦別市に生まれる。昭和14年から教鞭をとり、激動の時代にあって、強い信念と人間愛に満ちた教育を実践、「人格主義に立つ学校経営」を基盤に多くの教育課題の解決に尽力した。また、生涯学習社会の実現を図る推進体制の整備にも尽力し、本道の教育の振興に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
芸術文化	平成14年	第34回	小川　東洲	おがわ　とうしゅう		芸術文化の振興	昭和3年深川市に生まれる。北海道の大自然から得た素材を基調に斬新な着想と古代の書法を現代に生かした表現で、書に新しい方向性を示し国際的にも高い評価を得た。また、書を通しての国際交流や地域に根ざした書道の普及、後進の育成など、芸術文化の振興に多大の貢献をした。
学術・科学	平成14年	第34回	菊地　浩吉	きくち　こうきち		医学の発展と医学教育の振興	昭和7年樺太（サハリン）に生まれる。癌免疫学の研究で多大な業績を挙げ、国内外で高い評価を得ており、わが国の病理学、腫瘍学研究の指導者として活躍した。また、健康、癌予防などの啓もうに努め、医学に関する教科書や随筆を多く執筆するなど、医学の発展と医学教育の振興に多大の貢献をした。
自然環境保全	平成14年	第34回	辻井　達一	つじい　たついち		自然環境保全の推進	昭和6年東京都に生まれる。釧路湿原や世界各国の湿原、泥炭地の研究で国内外から高い評価を得た。また、豊富な知見により国、道の各種審議会会長等を務め政策提言を行うなど、自然環境保全の推進に多大な貢献をした。
学術・科学	平成15年	第35回	長谷川　由雄	はせがわ　よしお		コンブ促成栽培養殖技術の開発と水産業の振興	大正8年美唄市に生まれる。コンブ類の生理・生態の研究に取り組み、コンブ促成栽培養殖技術の開発により国内外から高い評価を得るとともに、安定的なコンブ養殖生産の企業化を可能とし、生産量を飛躍的に増大させるなど、水産科学技術の発展と水産業の振興に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
スポーツ	平成15年	第35回	三浦　雄一郎	みうら　ゆういちろう		スポーツの振興	昭和7年青森県に生まれる。プロスキーヤーとして、世界7大陸最高峰スキー滑降など数々の冒険的記録を打ち立てるとともに、70歳という世界最高齢でエベレスト登頂に成功するなど、道民に「夢と勇気と感動」を与え続けた。青少年教育にも携わるなど、スポーツの振興に多大の貢献をした。
社会福祉	平成15年	第35回	社会福祉法人小樽育成院	おたるいくせいいん		社会福祉事業の推進	明治31年小樽市に孤児院として発足、昭和22年からは高齢者福祉施設として100余年の永きにわたり社会福祉事業に取り組んだ。質の高いサービスの提供や地域介護の拠点として専門的な機能を発揮し、本道の高齢者福祉の発展に先駆的役割を果たしており、社会福祉事業の振興に多大の貢献をした。
男女平等参画	平成16年	第36回	大平　トシヱ	おおひら　としえ		男女平等参画社会づくりの推進	大正14年江別市に生まれる。戦後まもなくから、一貫して女性の社会的地位の向上や自立、社会参加を目指した活動を続け、高い見識と卓越した指導力により女性団体活動の先駆者及び牽引者として、本道の男女平等参画社会づくりの推進に多大の貢献をした。
芸術文化	平成16年	第36回	原田　康子	はらだ　やすこ		芸術文化の振興	昭和3年東京都に生まれ、幼少時に釧路に移住した。北海道を代表する作家として、「挽歌」、「海霧」など北国の風土を背景とした数々の作品を発表するとともに、北海道文学館の礎を築くなど文学の普及と発展にも尽力し、文学を通して本道の芸術文化の振興に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	平成17年	第37回	岡部　卓司	おかべ　たくじ		菓子産業の振興	大正13年札幌市に生まれる。北海道における菓子産業のパイオニアとして菓子づくり一筋に精励するとともに、社内短期大学の開設など人材育成にも尽力した。また永年にわたり初代在札幌オーストリア共和国名誉領事を務めるなど、本道の菓子産業の振興に多大の貢献をした。
芸術文化	平成17年	第37回	倉本　　聰	くらもと　そう		芸術自然文化の振興を通した まちづくりの推進	昭和10年東京都に生まれる。昭和52年富良野市に移住、脚本家として北海道の豊かな自然を舞台にした作品を数多く手がけるとともに、自ら開設した「富良野塾」による取組がまちづくりに大きな影響を及ぼすなど、芸術自然文化の振興を通して本道のまちづくりの推進に多大の貢献をした。
産業経済	平成17年	第37回	藤野　貞雄	ふじの　さだお		農業の振興	昭和2年富良野市に生まれる。本道農業界において力強いリーダーシップを発揮し、農畜産物の生産・販売体制の強化に取り組むとともに、次代の北海道農業を担う人材の育成にも尽力するなど、北海道農業の振興に多大の貢献をした。
教育	平成17年	第37回	森本　正夫	もりもと　まさお		教育学術の振興と 北海道総合開発の推進	昭和6年札幌市に生まれる。道内最大の総合学園の責任者として私学高等教育の振興に取り組むとともに、北海道総合開発委員会委員として総合計画の策定・推進に尽力するなど、本道における教育学術の振興と北海道総合開発の推進に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	平成18年	第38回	谷口　　博	たにぐち　ひろし		熱機関サイクルの研究	昭和5年東京都に生まれる。北海道大学などで熱機関サイクル等の研究に取り組み、燃焼場での複雑なガス温度分布や壁面への熱流速分布を求める手法を開発した。また、高効率のボイラシステムやスチームエンジンを開発するなど、本道の学術・科学の振興に多大の貢献をした。
芸術文化	平成18年	第38回	谷本　一之	たにもと　かずゆき		アイヌ・北方諸民族文化の研究と芸術文化の振興	昭和7年美唄市に生まれる。永年にわたりアイヌや北方諸民族文化の研究に取り組み、その集大成として平成12年に刊行された「アイヌ絵を聴く－変容の民族音楽誌」は国際的にも第一級の研究成果として高い評価を受けた。また、北海道らしい地域文化と、だれもがその恵沢を享受できる生活文化圏の創造を謳った「北海道文化振興条例」の制定に尽力するなど、本道の芸術文化の振興に多大の貢献をした。
社会福祉	平成18年	第38回	廣瀬 清藏	ひろせ　せいぞう		児童福祉の推進	大正11年美唄市に生まれる。昭和31年私財を投じて児童養護施設「黒松内つくし園」を開設以来、児童の養育に情熱を傾けるとともに、里親の開拓や連携強化に努めるなど里親制度の振興に尽力した。また、高齢者や障害者に対する質の高い福祉サービスの提供にも先進的に取り組むなど、本道の社会福祉の推進に多大の貢献をした。
芸術文化	平成19年	第39回	小檜山　博	こひやま　はく		芸術文化の振興	昭和12年滝上町に生まれる。一貫して北海道の風土やそこに生きる人間を描き続けて、昭和58年に小説「光る女」で泉鏡花文学賞を受賞する。その後も多くの小説やエッセーを発表し、平成18年には「小檜山博全集」を出版した。財団法人北海道文化財団理事や神田日勝記念美術館館長などの公職も務め、本道の芸術文化の振興に多大な貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	平成19年	第39回	菅野　祥孝	すがの　しょうこう		土づくりを重視した農業振興	昭和8年上富良野町に生まれる。ボトムプラウや振動サブソイラ等の農機具の革新的な開発改良をし、機械化による土づくりの推進及び北海道農業の生産性の向上に寄与した。また、北海道遺産に選定された「土の館」を通じて、土・農業・食の大切さを多くの農業者や消費者に啓発するなど、本道の農業の発展に多大な貢献をした。
産業経済	平成19年	第39回	正木　宏生	まさき　ひろお		ものづくり産業の振興	昭和10年兵庫県相生市に生まれる。㈱ダイナックスを創業時から率い、昭和55年から平成16年までは同社の社長として、国内自動車メーカーのニーズに合わせるために湿式クラッチ板の独自開発に取り組み、世界シェア35%を占めるまでに発展させた。このことは、本道においても世界的企業へ飛躍することが可能であることを立証したもので、本道のものづくり産業の発展に多大な貢献をした。
学術・科学	平成19年	第39回	水谷　純也	みずたに　じゅんや		クリーン農業の推進に向けた基礎技術研究	昭和7年多度志村（現深川市）に生まれる。永年にわたり、クリーンな農業生産のための基礎技術研究である植物情報物質とその作用や生成機構などについての探求を行った。更にその研究成果を応用展開させるために道内の研究機関や地元企業と連携して商品開発をするなど、本道の農業や地域振興並びに学術振興に多大な貢献をした。
芸術文化	平成20年	第40回	青坂　満	あおさか　みつる		無形民俗文化財の普及と保存伝承	昭和6年江差町に生まれる。幼少の頃から漁業に従事する傍ら、漁師の謡う江差追分を聴いて育つ。江差追分を探求し続けて、昭和43年の江差追分全国大会で優勝するとともに、、独特の音調を持つ青坂節を完成させた。江差追分会館専任指導員、江差追分改正師匠として、北海道無形民俗文化財である「江差追分」の普及と保存伝承に多大な貢献をしている。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	平成20年	第40回	大森　義弘	おおもり　よしひろ		産業経済の振興	昭和4年札幌市に生まれる。昭和30年国鉄に入り、昭和62年に民営化されたJR北海道の初代社長に就任して以来、会長、相談役、特別顧問を歴任。札幌駅周辺の連続立体交差事業の推進や新千歳空港駅を開業させるなど、鉄道網の利便性の向上に尽力した。また、北海道経済同友会代表幹事として、積極的な企業誘致や北海道新幹線の早期実現ほか多くの産業振興策をを促進し、北海道の産業・経済の発展に多大な貢献をした。
産業経済	平成20年	第40回	小林　英一	こばやし　えいいち		ものづくり産業の振興	昭和6年東京都に生まれる。昭和44年芦別市に北日本精機（株）を設立。最先端の医療機器、情報通信機器などに使用される超小型ベアリングの技術開発を続け、世界38カ国に製品を輸出する国際企業に発展させた。高度な精度・品質が求められる超小型ベアリング業界に確固たる地位を築いたことは、本道のものづくり産業の可能性を切り拓くものである。
産業経済	平成21年	第41回	井上　一郎	いのうえ　いちろう		ものづくり産業と中小企業の振興	昭和9年小樽市に生まれる。(株)光合金製作所研究室長、代表取締役社長、取締役会長を歴任。水道水の凍結防止という地域課題に着目し、あくなき研究開発に取組むとともに、中小企業の経営体質の強化を積極的に支援。本道のものづくり産業と中小企業の振興に多大の貢献をした。
学術・科学	平成21年	第41回	千葉　峻三	ちば　しゅんぞう		医学の発展と国際協力の推進	昭和10年網走管内置戸村に生まれる。小児期胃腸炎の病原体「サポウイルス」の発見とその診断技術の開発に取り組み、小児医療水準の向上に尽力されるとともに、ケニア国の感染症対策にも尽力され、本道の医学の発展と国際協力の推進に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	平成21年	第41回	宮田　勇	みやた　いさみ		農業の振興	昭和10年石狩管内新篠津村に生まれる。トップリーダーとして、農業界を牽引し、食料安全保障に配慮した貿易ルールの確立に向けて要請活動を強力に推進したほか、北海道米の評価を全国的に高めるなど、本道の農業の振興に多大の貢献をした。
芸術文化	平成22年	第41回	米坂　英範	よねさか　ひでのり		芸術文化の振興と地域文化活動の推進	昭和9年釧路市に生まれる。彫刻家として、色濃く漂う風土性と人間の根源を希求する深い精神性を秘めた作品を数多く制作し、本道の芸術文化に大きな影響を与えるとともに、児童や市民の文化活動を積極的に支援。本道の芸術文化の振興と地域文化活動の推進に多大の貢献をした。
学術・科学	平成22年	第42回	丹保　憲仁	たんぼ　のりひと		学術教育の振興と 北海道総合開発の推進	昭和8年豊富町に生まれる。北海道大学総長として、本道の高等教育の推進に尽力されたほか、水環境工学の先駆的研究者として世界レベルで発展をリードし、多くの指導的人材を育成した。また、国や道の審議会等の会長職を多数歴任、本道の発展に多大の貢献をした。
消費者運動	平成22年	第42回	辻　冨美子	つじ　ふみこ		消費者活動の推進	昭和9年江別市に生まれる。市消費生活相談員等として、地域における消費者利益の擁護・増進に尽力された。また北海道消費者協会会長として、消費者の食の安全・安心の確保や生活を守る視点から精力的に活動を展開、本道の消費生活の安定・向上に多大の貢献をした。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	平成23年	特別賞	鈴木　章	すずき　あきら		科学技術の発展と産業経済の振興	昭和5年勇払郡鵡川村に生まれる。有機合成反応を研究し、パラジウム触媒を用いた有機ホウ素化合物のクロスカップリング反応を発見した。この技術は、化学分野のみならず産業分野でも広く活用され、こうした実績により、2010年ノーベル化学賞を受賞。科学技術の発展と産業経済の振興に多大の貢献をした。
学術・科学	平成23年	第43回	秋野　豊明	あきの　とよあき		医学の発展と地域医療の推進	昭和10年樺太恵須取町に生まれる。札幌医科大学長として、産学官連携を推進し、また、医療法人理事長として、本道で最初のドクターヘリ事業を軌道に乗せるなど、広域救急医療に尽力され、地域医療の推進に貢献した。基礎医学研究においては、肺サーファクタントの分子機構と新しい機能を解明し、肺疾患の診断技術の進歩に大きく貢献した。
芸術文化	平成23年	第43回	札幌こどもミュージカル育成会	さっぽろこどもみゅーじかるいくせいかい		芸術文化の振興と青少年の健全育成	昭和56年の設立以来、30年にわたり小学生を中心とした創作ミュージカルの公演活動を続け、青少年の健全育成に寄与するとともに積極的に海外公演を行い、草の根国際交流の輪を広げることにも寄与している。また、アイヌ文化を通して「命の大切さ」などの普遍的な価値などを国内外に発信することにより、本道の芸術文化の振興に大きく貢献した。
産業経済	平成23年	第43回	夕張メロン組合	ゆうばりめろんくみあい		農業の振興と全国ブランドの確立	昭和35年に設立され、付加価値の高いメロン栽培に取り組み「夕張キング」を誕生させた。共同選果体制を導入し、徹底した品質管理を行い、道内メロン産地として初めて東京出荷を実現させるなど、流通面で新たな道を切り開いた。また、全国初の地域名の入った登録商標を取得し、全国に通じるブランドを確立した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
芸術文化	平成24年	第44回	木原　直彦	きはら　なおひこ		北海道文学の振興	昭和5年厚真町に生まれる。これまで精力的に文学活動を続け、「北海道文学地図」「北海道文学大事典」「さっぽろ文庫」などの多くの事典等の公刊を担い、北海道文学を全国に知らしめた。また、北海道文学館の初代館長として北海道文学の整序に努め、指導的役割を果たした。
産業経済	平成24年	第44回	長原　　實	ながはら　みのる		ものづくり産業の振興	昭和10年東川町に生まれる。旭川家具の技術力と世界のデザインを融合させ付加価値を高めるため「国際家具デザインフェア」の旭川誘致に尽力され、国際的なブランドとしての「旭川家具」の地位向上に貢献した。また、自身も技術者として後進の人材育成にも尽力している。
学術・科学	平成25年	第45回	青木　由直	あおき　よしなお		IT産業の振興	昭和16年長野県に生まれる。マイクロコンピュータの黎明期に、手づくりのマイコンシステムを開発し、これが後の研究や教育に広く活用された。また、企業幹部を対象とした「青木塾」を主宰し、大学と企業との交流を促進する活動を行い、ここから多くの門下生が札幌で起業し、「サッポロバレー」の源流を作った。
産業経済	平成25年	第45回	鈴木　俊幸	すずき　としゆき		鉄鋼産業の振興	昭和10年山形県に生まれる。代表取締役を務める寿産業(株)が製造する、鋼材の成型・加工工程で使用される「ローラーガイド」は、国内シェアの8割を占め、国内外の製鉄所で採用されている。また、培った知識と経験を活かして、技術者育成や後継者育成など業界団体のレベルアップに寄与している。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	平成25年	第45回	矢野　征男	やの　ゆくお		農業の振興	昭和13年芽室町に生まれる。十勝農業の先進モデルとなる輪作体系を実践し、農業生産体系を確立するとともに、初代の「北海道指導農業士」として、担い手の育成に尽力した。また、「米チェン！」をキャッチフレーズとした官・民との連携による道内外でのキャンペーン活動を展開し、北海道米の評価向上と認知度アップに貢献した。
産業経済	平成26年	第46回	金井　昭雄	かない　あきお		CSR（企業の社会的責任）の推進と国際貢献	昭和17年樺太豊原市に生まれる。「企業の社会的責任」（CSR）として、（株）富士メガネ社員とともにタイやネパール、アゼルバイジャンなどの難民キャンプや国内避難民居住区を訪問し、難民1人ずつに対し、検査を行い、それぞれの人の視力にあった眼鏡を寄贈するほか、現地スタッフの教育や技術指導を行うなど、難民支援に貢献をしている。
産業経済	平成26年	第46回	櫻庭　武弘	さくらば　たけひろ		水産業の振興	昭和16年斜里町に生まれる。地元漁協組合長として、斜里町を日本有数の秋さけ産地に育て上げ、地域水産業ならびに沿岸漁業の振興に多大な貢献するとともに、北海道漁業協同組合連合会会長就任時の、燃油高騰の際には、国の緊急燃油対策の実現に尽力し、東日本大震災による漁業被害の際には、早期に対策を講じ、復旧・復興に貢献をした。
産業経済	平成26年	第46回	林　　正博	はやし　まさひろ		林業の振興	昭和14年風連町に生まれる。風連町森林組合理事就任時から、森林組合の広域合併に尽力し、特に、北海道森林組合連合会会長就任期間は、健全な経営を実現できる森林組合の育成と振興を図ることを目的とした「中核森林組合」の育成・認定に尽力し、地域の森林整備の担い手として重要な役割を果たす森林組合の経営基盤の健全化に貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	平成27年	第47回	中村　睦男	なかむら　むつお		アイヌ施策への貢献	国のアイヌ施策に多大な貢献をしており、「ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会」委員として、ウタリ対策のあり方に対する提言の取りまとめに貢献した。 この提言は「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」制定の礎となった。公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の理事長として、アイヌ文化の振興や伝統などに関する知識の普及及び啓発を図るための施策を積極的に推進している。
学術・科学	平成27年	第47回	三宅　浩次	みやけ　ひろつぐ		公衆衛生分野・医学教育への貢献	北海道の公衆衛生を支えるトップリーダーとして永年にわたり活躍、疾病を予防し、道民の健康を守る上で重要な基礎的研究を推進してきた。 　平成14年からは、北海道公衆衛生協会の会長に就任し、公衆衛生関係の若手育成にも熱心に取り組まれた。また、衛生行政に従事する医師の育成と資質の向上に大きく寄与するとともに、医師のほかにも、保健師、助産師、看護師の養成にも貢献している。
芸術文化	平成27年	第47回	安田　侃	やすだ　かん		本道における文化振興の貢献	道内はもとより世界各地に彫刻作品が設置され、周囲の自然と調和した独特の空間を創り出しており、国内外から高い評価を受けている。 北海道に対する文化振興にも多大な貢献をしており、平成4年には氏の故郷である美唄市内の廃校跡地に作品を設置し、「アルテピアッツア美唄」として再生し、施設内で開催する授業では、氏が直接指導を行っている。本道の文化振興に大きく貢献している。

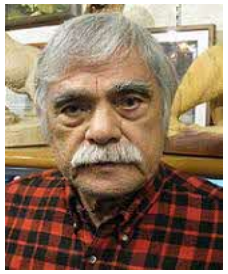
北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
多分野	平成28年	特別賞	伊藤　義郎	いとう　よしろう		産業経済の振興への貢献をはじめ多分野における本道への社会貢献	本道の社会資本の整備をとおし、地域の発展に大きく寄与するとともに、北海道建設業協会会長や北海道商工会議所連合会会頭を歴任。長きにわたり、道内産業経済に多大な貢献をしている。 また、札幌オリンピックの開催へ尽力するなど、、経済、芸術・文化、スポーツ、医療、国際交流、放送など多方面の分野の功績も非常に大きい。
学術・科学	平成28年	第48回	喜田　宏	きだ　ひろし		インフルエンザウイルスの生態解明と対策への貢献	昭和51年以来、北海道大学において獣医微生物学と人獣共通感染症学の教育と研究に携わり、その功績が顕著である。 感染症の知識の普及・啓発に尽力するとともに鳥インフルエンザの被害防止対策の指揮を執り、道をはじめ、全国そして世界の養鶏産業に多大の貢献を果した。
食文化振興	平成28年	第48回	嶋宮　勤	しまみや　つとむ		本道における食文化振興への貢献	昭和46年に札幌市にすし店「すし善」を開業し、すし職人として国内外で活躍。その技術は国内外に高く評価されるとともに後継者の育成にも尽力した。 また、米国において日本食文化の理解促進に貢献をするとともに、北海道洞爺湖サミットでは寿司部門総括責任者としての重責を果たしており、本道の食文化の振興に多大の貢献をした。
産業経済	平成28年	第48回	高向　巌	たかむき　いわお		北海道地域経済の発展と 社会資本整備推進への貢献	平成5年に北洋銀行副頭取に就任、頭取、会長、相談役などを歴任。道内の金融機能の安定に多大な貢献を果たした。札幌商工会議所会頭、北海道商工会議所連合会会頭に就任以来、本道経済の活性化に尽力し、道産品の販路拡大や農林水産資源を活用した道産品の開発育成、産業人材の育成に取り組んだ。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	平成29年	第49回	佐伯　浩	さえき　ひろし		港湾工学・海洋開発の発展への貢献	北海道大学において港湾工学分野の研究と教育に携わってきたほか、北海道大学総長として、高等教育の振興に貢献した。 寒冷地特有の問題である沿岸の氷対策の研究での功績が顕著であり、国際的に高い評価を受けた一連の研究を基礎として建設された構造物は、本道の養殖水産資源及び養殖施設の流氷被害を防ぐ施設として評価され、漁業振興や住民の生活基盤の安定に大きく貢献した。
芸術文化	平成29年	第49回	手島　圭三郎	てしま　けさぶろう		芸術文化の振興と地域文化活動の推進	木版画家及び絵本作家として、本道の豊かな大地で生きる動植物の姿を力強く美しく、時に幻想的に表現した絵本を発表し、国内外から高い評価を受けている。 また、アイヌの人たちが大自然と共に生きてきた姿を表現した絵本も発表しており、アイヌ文化をはじめ、本道の文化の振興に大きく貢献した。
多分野	平成29年	第49回	似鳥　昭雄	にとり　あきお		小売商業の振興と文化・芸術の振興への貢献	昭和42年に本道で家具店を創業し、家具・インテリア市場を牽引する企業のトップとして、国内外で活躍するとともに、「北海道応援基金」を設立し、公益財団法人似鳥文化財団の理事長として、歴史・文化の継承、支援を行うほか、小樽市に「小樽芸術村」を開設するなど、本道の文化・芸術の振興に大きく貢献した。
学術・ 男女平等参画	平成30年	第50回	岡田　淳子	おかだ　あつこ		学術振興と男女平等参画社会づくりの推進への貢献	アラスカ地域の先住民文化及び本道の先史文化について、考古学、文化人類学の見地から研究を行うほか、北海道立北方民族博物館館長を務めるなど、学術の振興に大きく貢献した。 また、女性の地位向上を求め、道立女性プラザ館長をはじめ、女性団体の活性化に取り組むなど、本道の男女平等参画社会の推進にも大きく貢献した。

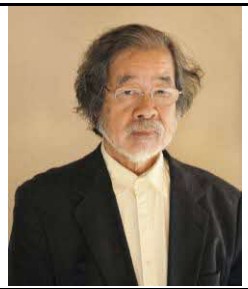
北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
学術・科学	平成30年	第50回	長瀬　清	ながせ　きよし		地域医療の推進と緊急医療体制強化への貢献	開業医として地域住民の健康管理を行う傍ら、医師会の活動に尽力し、北海道医師会会長として、ドクターヘリやメディカルウィングの運航といった緊急医療体制の整備や地域医療格差への対策に取り組むほか、がん対策や生活習慣病に関する普及啓発に努めるなど、そのリーダーシップによって、本道の地域医療の推進に大きく貢献した。
産業経済	平成30年	第50回	西村　紘一	にしむら　こういち		シンガポールにおける北海道の認知度向上・本道への誘客促進	シンガポールで旅行会社を経営し、シンガポールにおける北海道ドライブ旅行ブームの先駆者として、レンタカーでの北海道ドライブ観光を提案、実現させ、その結果、アジア各国の人々に道内ドライブ観光の魅力が拡大するなど、観光業をはじめとする本道の産業振興に大きく貢献した。
芸術文化	平成30年	第50回	藤戸　竹喜	ふじと　たけき		芸術文化振興・アイヌ文化振興への貢献	木彫作家として、北の動物やアイヌ文化を伝承してきた先人たちの姿を表現した作品は、その卓越したイメージ力、構想力とともに、生命あるものへの深い愛情に根ざした写実表現で、国内外から高い評価を受けている。特に、JR札幌駅に設置されたアイヌの像は、その大きさと表現の緻密さで、見る人に感動を与えるなど、アイヌ文化をはじめ、本道の文化振興に大きく貢献した。
芸術文化	令和元年	第51回	小原　道城	こはら　どうじょう		芸術文化振興への貢献	書家として国内外で活躍し、常に豊かな表現や新しさを追求する作風は、高い評価を受けている。海外からも多くの出品がある「国際現代書道展」を昭和44年から毎年北海道で開催するほか、平成25年に書道美術館を開設し、日本や中国の大家の作品に加えて北海道の歴史と発展に係わる作品を展示紹介するなど、本道の文化振興に大きく貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	令和元年	第51回	嶌村　彰禧	しまむら　あきよし		本道におけるワイン産業振興への貢献	昭和49年に北海道ワイン株式会社を創業し、国産ぶどうのみを使用したワインを醸造するという完全国産主義を貫き、道内最大のワインメーカーに育て上げるとともに、ぶどう農家への技術指導やワイン産業を担う人材育成に努めるなど、北海道が国内有数のワイン産地となった礎を築き、本道の産業振興に大きく貢献した。
社会福祉	令和元年	第51回	公益財団法人 北海道盲導犬協会	こうえきざいだんほうじん ほっかいどうもうどうけん きょうかい		社会福祉の推進への貢献	道内唯一の盲導犬訓練施設として昭和45年に設立して以降、活動資金の多くを道民からの寄附で支えられながら盲導犬の育成を行い、視覚に障がいのある方々への貸与等を通じて、本道の社会福祉の推進に大きく貢献した。冬期間の訓練及び育成技術は全国で唯一のものであり、道内のみならず、東北、北陸など積雪地域において高く評価されている。
学術・科学	令和2年	第52回	今井　浩三	いまい　こうぞう		がん研究への貢献と医学教育の振興	日本癌学会会長を務めるなど、国内のがん研究の第一人者として、北海道から世界へ発信する顕著な功績を上げている。 札幌医科大学が公立大学法人化された際の初代理事長として、現在の法人運営の礎を築くと共に、道内医系大学や医薬関係企業との共同研究や地域医療の推進にも尽力し、その研究成果を広く世界の患者に還元するなど、医学研究の発展に大きく貢献した。
芸術文化	令和2年	第52回	貝澤　雪子	かいざわ　ゆきこ		アイヌ文化振興への貢献	アットゥシの第一人者として、50年以上にわたりアイヌの伝統的な技法を守りつつも、今までとは異なる手法を取り入れた個性的な作品を制作している。伝統的な着物や帯に加え、名刺入れやコースターなど現代の客の要望にも応じた作品の企画・制作を通じて、アイヌ文化の普及・伝承に大きく貢献した。

北海道開発功労賞・北海道功労賞歴代受賞者

部門	受賞年	受賞回	氏名	ふりがな	写真	功績	功績概要
産業経済	令和2年	第52回	小砂　憲一	こすな　けんいち		バイオ産業の発展と 地域経済の発展への貢献	昭和59年に株式会社アミノアップを創業。北海道の食材を活かしたサプリメントなどの機能性素材は、海外から高い評価を受けている。その経験を活かし、道内のバイオ企業等の新規事業の創出や医学・薬学を研究する学生等への支援を行うなど、本道のバイオ産業の発展に大きく貢献するとともに、北海道の文化・芸術や地域活動への支援など、様々な分野で社会貢献を果たした。
芸術文化	令和2年	第52回	水越　武	みずこし　たけし		写真文化の発展への貢献	昭和40年から写真家として、日本や世界各地の山岳、森林、熱帯雨林、氷河などを対象に創作活動を続け、国内はもとより海外の美術館や博物館での個展開催や著作を続けてきた。昭和63年に道東の屈斜路湖畔に移住後も精力的に活動を続け、日本の写真文化の振興に貢献したほか、写真を通じて、北海道の自然の魅力を世界に広く発信している。